

原因； 帯状疱疹は、水ぼうそうを起こす原因ウイルスと同じ水痘（すいとう）・帯状疱疹ウイルスによって起こる病気です。

水ぼうそうは多くの方が子供の頃にかかり、発症後 1 週間程度で治ります。しかし、治ったといってもウイルスが消滅したわけではありません。実は、体の神経節（しんけいせつ：神経の細胞が集まった部分）に隠れて、復活の機会を狙い、長い場合は何十年も潜伏し続けます。

過労やケガ、大きなストレス、病気、手術、免疫抑制薬の使用、高齢化など免疫力が低下したときにウイルスが復活し 帯状疱疹として症状を現します。

症状； 免疫力の低下によって復活したウイルスは、神経節から出て活動を再開し、皮膚に帯状の水ぶくれをつくります。この帯状の症状から「帯状疱疹」といわれます。

皮膚にチクチクするような痛みが起こることから始まります。次に、痛みを感じた場所にブツブツとした赤い発疹ができ、小さな水ぶくれとなって帯状に広がります。この症状は、特に胸から背中、腹部などによくみられます。顔や手、足に現れることもあります。

症状が現れるのは体の左右どちらか片側だけであり、一度に 2 ヶ所以上の場所に現れることはほとんどありません。皮膚症状は、水ぶくれからかさぶたになっておさまります。痛みが起こり始めてからかさぶたが治るまで、約 3 週間から 1 ヶ月かかり、多くの場合、強い痛みを伴います。

痛みは、刺すような鋭い痛みから始まり、しだいに衣類と触れるようなわずかな刺激にも、ピリピリと痛みを感じるようになる場合もあります。ほとんどの場合、皮膚症状の消失と共に痛みも無くなります。

治療； 抗ウイルス薬は、ウイルスの増殖を抑制し、病気の期間を短縮します。できるだけ早期から抗ウイルス薬を使うことで症状の悪化を防ぎ、皮膚や神経のダメージを軽くする効果が期待できます。抗ウイルス薬として塩酸バラシクロビル、アシクロビル、ファムシクロビルなどが使われます。